

ぶらっとサロン椿通信 令和3年4月増刊号

今号の椿 ト伴(ぼくはん)/別称:月光(がっこう)or 白芯ト伴(はくしんぼくはん)



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年3月10日から自粛し**現在休業中**です。
本年からタイトルに『椿』を加えました。(有楽齋)



「観音寺椿」

江戸前期に作成された「百椿集」に観音寺椿の記述があり赤色の五弁の中に白色の薬(しべ)があるとあり 古典椿の「朴伴(ト伴)」であると思われます(芦浦観音寺(滋賀県草津市)HPより)

観音寺椿とト伴(朴伴)そして滋賀県の古刹の由縁を考えます

←椿花図譜(江戸期)



芦浦観音寺 阿弥陀堂(重文)

芦浦観音寺 滋賀県草津市芦浦町

天台宗「大慈山観音寺」と称し、通称「芦浦観音寺」で親しまれ、本尊は十一面観世音菩薩で秘仏となっている。寺歴は古く、「大安寺三綱記」によると、飛鳥・奈良時代は三論宗であった。その後の中古の歴史は明らかではない。芦浦観音寺文書233点は草津市観音寺に伝わる古文書群で、古文書群に含まれる明智光秀書状は、現存数少ない光秀発給文書のひとつとして貴重なもの。(芦浦観音寺HPより)

↓百椿集抜粋

江州草津・昔より比叡山・市流観音寺ト云名地
あり天下幾度轉変アレ共衰微ノ色ナリ茲以繁
榮ス此寺ヨリモタル花ナレハソ世人其名ヲ云
ナラン赤キ五葉ノ中ニ白葉色々ト有テシ、赤
シサ不厭見

「百椿集」(寛永7年1630)(左記)に記載されている

「観音寺椿」に関する記述 (百椿集下35) 注:□は筆者付記

←「・・・赤キ五葉ノ中ニ白薬(しべ)色々ト有リテ シホラシサ不厭見」

観音寺文書の中の椿に関する文書→

↓椿花図譜(宮内庁蔵本)/一部拡大



←芦浦観音寺文書

No.106

【中白椿無事到着の礼状】

この「中白椿」は、「椿花図譜」にある「観音寺」であると思われます。

井上正就、永井尚政は老中、松平正久は幕府勘定奉行

鈴木和代さん(埼玉県在住の椿研究家)の寄稿文より

【観音寺椿】



境内の【観音寺椿】案内板

江戸前期に作成された「百椿集」(寛永7(1630)年)に観音寺椿の記述があり「赤色の五弁の中に白色の薬がある」とある。古典椿の「朴伴」であると思われるが、当時の椿は現存しておらず、境内の「朴伴」(別称:ト伴(ぼくはん)、月光(がっこう)、白芯ト伴)は平成22年に植栽されたものである。「椿花図譜」(元禄13年発行【推定】)にも観音寺椿が記載されている。芦浦観音寺の拝観は5名以上の予約制となっており、年2回(春・秋)の一般公開については予約なしで拝観できます。

芦浦観音寺HPほかより抜粋し作成しました(有楽齋)